

映画とパネルディスカッション

10.1 国策を問う! 第一弾

フクシマ・ミナマタ



福島第1原発4号機原子炉建屋への注水作業
(3月22日撮影。東京電力ホームページより)

福島原発の人災は多くの暮らしを直撃した。子供たちの将来が深刻だ。

高度経済成長の犠牲、水俣病と併せ、国策を問う!

とき ・2011年10月1日(土)

12時開場/12時30分開演

ところ ・きららホール

(JR・東武船橋駅南口駅前、京成船橋駅隣)

〒273-0005 船橋市本町1-3-1 フェイスビル6階

TEL 047-423-7261

後援：朝日新聞千葉総局 毎日新聞千葉支局

映画上映(12:00より)

・「みなまた 海のこえ」

40分 石牟礼道子 ぶん 丸木俊・位里 え 監督 藤山顕一郎

・「原発切抜帳」

1982年 45分 企画・演出：土本典昭 語り：小沢昭一
監修：高木仁三郎、西尾漢

パネルディスカッション(14:00より)

パネリスト

・原田裕史(たんぼ舎講師 大学・大学院で原子力専攻 1967年生)

・細谷 孝(チッソと国の水俣病責任を問うシンポ実行委、中央大)

司会

・久保田好生(東京・水俣病を告発する会、高校教諭)

参加費

一般 1,000円、前売り券 5枚綴り1組4,000円

大学生以下無料

会の紹介

・たんぼ舎

(原発や環境問題を考えるみんなのひろば)
1989年に東京都千代田区に誕生。チェルノブイリ事故で食品汚染を心配し、放射能測定機(1台約600万円、1件7,000円で測定)を中心に、原発廃止を目指して設立

①原発の根本問題を広く指摘し、廃止を目指す

②劣化ウラン兵器の禁止

③核兵器の廃止

を主な目的に活動中。講師の紹介・派遣、パンフの発行など多彩な活動を展開中。

・東京・水俣病を告発する会

1970年6月結成 同時に「水俣一患者さんとその世界」監督：土本典昭のクランクイン患者上京行動の支援や宣伝活動。季刊「水俣支援」(B5モノクロ約30P 1,4,7,10月刊)



石牟礼道子が1960年に同人雑誌へが最初の「苦海浄土」の絵本化(小峰書店)したものを映画に。

主催：京葉生きいき会議

〒274-0065 千葉県船橋市高根台6-41-16 ライフアップ気付

・津野：TEL047-464-9087 FAX 047-464-9069 携帯090-3512-8877

相川 TEL&FAX047-498-9140

さよなら原発集会

日時 9月19日(月・敬老の日)

午後1時から集会

集会終了後デモ行進

場所 東京・明治公園

JR「千駄ヶ谷駅」下車・3分

地下鉄大江戸線「国立競技場前」下車・2分

呼びかけ人

内橋克人 大江健三郎 落合恵子 鎌田慧

坂本龍一 澤地久枝 瀬戸内寂聴 辻井喬

鶴見俊輔



原爆被爆体験国でありながら原子力大国へと進む戦後日本の姿が。(映画「原発切抜帳」より)

太陽と風、大地、自然の恵みをエネルギーに!

全国1000万署名にとりくみます。

9/19 全国でのアクションを呼びかけます。

さようなら原発 1000万アクション

原発・持続可能で平和な社会をめざして

http://www.sayonara-nukes.org

国策を問う へのご賛同のお願い

謹啓

昨夏をしのぐ猛暑の中、節電が声高に叫ばれておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

この度の東日本大震災に際し、志のある多くの方々や団体が、被災者への支援。人災、東電福島第一原発大事故による諸問題への対応、とりわけ身近な放射能汚染とその影響の勉強会、行動など、有意義な活動をされておられるのに、深甚なる敬意を表します。

私たちは、使用済み燃料の処理方法が確立できないなどで、原発には否定的立場でしたが、京葉生きいき会議としてこの問題を取り上げてきませんでした。

ご存知の通り、京葉生きいき会議は、ペシャワール会中村哲医師講演会を軸にあなた様はじめ多くの方々のご支援で、組織づくりをやってきました。会報は、それに加えて水俣、韓国・朝鮮ならびに沖縄などに触れてきました。それらの経験も生かしながら、原発を推進し、依存する国策を問うことといたしました。下記の予定したイベントとともに多くの方々私たちの進むべき道を確立していきたいと考えます。

この一連の活動に是非ともあなた様、貴団体に賛同人になっていただき、賛同金をご負担下さいますようお願いする次第でございます。

第1弾、第2弾（明記要）の前売り券を用意しております。よろしく願いたします。

澤地久枝さんなど9人の方々の呼びかけに応え「さよなら原発、1000万人アクション」と協力することを付記します。

皆様方のご健勝をお祈りいたします。

敬具



「原爆の図 火」の一部 1950年 丸木位里・俊

不知火海。全人類に有機水銀の害毒をまき散らしたチッソ水俣工場。苦しみなから人も人ひととは、公害を、文明を問う闘いをしていくのです。
放射能がばらまかれていきます。動いていけると、ブルトニウムが蓄積されて行きまふ。ある日、日本は、強大な原爆保有国に早変わりするのではなうか。
(一九八一年)

今後のイベントの予定

- ☆ □国策を問う！□講演会 第2弾
とき 2012年2月3日(金) 18:00開場
ところ 船橋市勤労市民センターホール
講師：松原弘直さん

(環境エネルギー政策研究所理事、主席研究員、工学博士 1963年生まれ。製鉄会社研究員、ITコンサルタントなどを経て、持続可能なエネルギー社会の実現に向けて取り組む研究者として現在に至る。原水禁エネルギープロジェクト委員)

テーマ：仮題 エネルギーシフト

参加費：一般（前売り・当日共）1,000円

前売り券5枚綴り 1組4,000円 大学生以下無料

- ☆ □国策を問う！□講演会 第3弾

2012年秋 船橋市民文化ホール

講師：未定（柳田邦男さん、西尾漠さん、小出裕章さん交渉中）

水俣病の国の責任についてのメモ

- ・1956年公式確認の直後57年、熊本大、水俣湾内の漁獲禁止が必要と報告。権限のある県は判断せずに厚生省に照会。厚生省は拒否。
- ・1959年 熊本大研究班、有機水銀説発表。厚生省の部会が「有機水銀原因説」を大臣に答申。翌日部会は解散（閣議に提議した厚相を池田勇人通産相がどなりつけた）。御用学者迷説を出す。
- ・1968年 チッソが水銀を使用しなくなってから、政府は公害認定。
- ・1971年 環境庁認定基準を通知。73年補償協定調印。チッソ被害補償で経営難に、国は金融支援し、270億円返済を免除したが、直接補償は避けた。
- ・1977年 環境庁認定基準を厳しくし、認定患者をゼロに近づけ、チッソの負担を軽減する。以後この基準は、最高裁判決を受けても変更せず、未認定患者は「水俣病被害者」として低額の救済金にとどめる。
- ・2007年 「水俣病特措法」成立。2011年それによって、チッソは分社した。

賛同申込書

(FAXまたは郵便振替でお申し込みください)

1 賛同金

| | | | | | |
|----|----|-------|----|---|---|
| 個人 | 1口 | 1000円 | 口数 | □ | 円 |
| 個人 | 1口 | 1000円 | 口数 | □ | 円 |

2. 前売り券

| | | | | | |
|--------|----|-------|----|---|---|
| 一般 | 1枚 | 1000円 | 枚数 | 枚 | 円 |
| 一般5枚綴り | 1組 | 4000円 | 組数 | 組 | 円 |

3.お名前の公表

可 不可

お名前 _____

4. ご住所

5. 電話・FAX

6. 当方の郵便振替口座

口座名 京葉生きいき会議
00130-3-616389